

ユネスコスクール・高校生フォーラム 世界大会レポート

1年 岡阪 美心実 おもてなし（ウルグアイ）

1日目。夕方までは今まで通りの準備セミナーと同じような雰囲気でした。会話や作業中もこの間とは全然違っていてびっくりしました。これならいけると安心しました。いよいよゲストとの顔合わせ会です。私の担当するゲストはウルグアイの方だったのですがスペイン語しか話せなくて、それがその場で発覚したこともあってすごく焦りました。全く会話ができなかったのですがゲストもすごく緊張していましたが、事前に少しだけ調べておいた簡単なスペイン語で完全なカタカナ読みでも自己紹介をすると、笑顔になってくれて「やっぱり自分の国の言葉が聞けると安心するんだな」と思いました。その日はとりあえず調べたスペイン語を連発して、帰りもスペイン語で「さよなら」って言って笑顔で一日目を終えてもらうことができました。その夜は2時までかかっておもてなしをするのに必要なフレーズを調べて用意しました。

2日目。朝エレベーターホールで会って私を見つけた時にすごく安心した顔で笑ってくれて、今日も一日この人たちのために頑張ろうって思いました。前の晩に調べたフレーズを駆使して仲良くなる努力をしました。連携は私の心配も無用でばっちりでしたが、常にゲストから目を離さないことやゲストを第一に考えることがちょっとできていない部分があったので少し残念でした。でもチームのみんながそれぞれ担当のゲストと積極的に仲良くなろうとしていたのでそこが一番良かった所でした。会話も言語ボランティアの方に手伝っていただきながらですが、全く触れたことのない言語しか話せない相手でも気持ちさえあれば伝え合うことが出来ることを学びました。ゲストも私に一生懸命ものを伝えてくれて、その気持ちがすごく嬉しかったです。その夜は、明日でお別れなんかって思ってた寝る前にちょっと泣いてしまいました。3日目。この日はディスカッションと全体会が同じ席だったので、移動や日程面で困ることはありませんでした。その分ゲストに気を遣う余裕ができたので良かったです。お昼休憩の時間にビッグカメラに行く時に、もう一人のゲストの担当のおもてなしが誰も来ていなくて本当に焦りました。すごくイライラしてしまいましたがゲストに伝わってしまわないように、かつ急いでおもてなしを呼ぶのが大変で、頑張りました。その時ペアの子から「あと2時間ぐらいでお別れやな」って小声で言われて、少し寂しかったです。でもその後お別れ前の最後のお話できる時には、前日に苦労して書いたスペイン語のお手紙を笑顔で渡せて笑顔で読んでくれて、本当に頑張った良かったなと実感しました。その時のゲストの笑顔がこの3日間で一番の笑顔だったので、ずっと忘れられません。この2年間高めてきたハートとスキル、たくさんの人が関わって1つのことができるということ、私たち高校生でも今回のような世界大会を運営できること、世界中の人の地球に対する考え、世界中の人の笑顔はきっと、私の人生の一番大事な宝物としていつまでも心の中で輝き、いつか地球の未来を明るく照らす光となることでしょう。

1年 勝良 葉月 おもてなし（会場サブチーフ）

私は今回の世界大会ではアジア大会に続き2年目ということで、おもてなしの会場サブチーフをさせていただきました。チーフ陣のなかで、高校1年生が私だけで、おもてなし係の人に、私はチーフとして認められないのではないかと不安に思っていました。しかし、チーフ陣の先輩やおもてなしの人たちのおかげで会場サブチーフの仕事ができました。チーフ陣は他の係の人との連携が大切で、私たちおもてなしは主に、運営、工房、受付、案内の人との連携がありました。リハーサルではその連携がうまくいかず、私が担当した会場2のプレゼンテーションでリハーサルでは多くの課題を残しました。そこから他の係の人とよく話し合い、お互いの係で言われたことを共有し確認し合いました。そして本番では、リハーサルの時と比べものにならないくらいの人々が一斉に会場に入場してきました。しかし受付、案内の人がうまく誘導してくださったので、スムーズにゲストが席につくことが出来ました。また、ある国のゲストが一人いないと分かったら、運営、工房の人たちと探し、時間通りにディスカッションを始めることが出来ました。「ありがとうございます。」とお互いに言ったとき、ディスカッションは大成功だったと思い安心できました。また、ディスカッションのとき、ケニアの先生が生徒さんを探している様子を見て、英語で話しかけ、生徒さんを見つけることができたとき、「ありがとう」と言ってくださり、よかったです。アジア大会の時の私は、人に英語で話しかけるなんて考えられませんでした。おもてなし係にならなかつたらこんな風に成長できなかったと思います。この大会を通して私は「世界」というものが実は隣り合っていて、どの国の人も自分の国が好きで、他の国も好きということが分かりました。今回は3日間という短い期間でしたが、たくさんの笑顔を見ることが出来ました。これと同じ経験はこれから簡単にはできないでしょうが、将来に生かしていきたいです。最後に支えてくださった先生方を初めとする、大会に参加してくださったゲストの方に、この素晴らしい経験をさせてくださったことに心から感謝します。

2年 井関 やあめ ファシリテーター（議長）

ESDの活動を通して経験したことは私が今まで経験したどんなことよりも素晴らしいものだった。思い返せば去年の6月、私にとって初めての準備セミナーのことは今でも鮮明に覚えている。少し恥ずかしくなるくらいの温かい拍手や気持ちのよい挨拶など全てに圧倒され、ただただ感心するばかりだった。けれど何回か準備セミナーに参加するうちに自分もESDの考え方というものを吸収し、拍手や挨拶、他への気配りというものを恥ずかしがることなく自然と身につけることができた。最初は意味も良くわからなかったあいこちゃんけんの考えがどんなに素敵なものか、会場をきれいに装飾することがどんなに大切なことかが理解できるようになり、その素晴らしさに気付いた。私にとって準備セミナーは毎回、必ず一つはこれから先、生き

ていくうえで一生大切にしていきたいと思うものが学べる場であった。あたりまえのように思えることでもこの活動に参加しなかったら身につけることができなかつたことがたくさんあった。私はこの1年半で合計3回のフォーラムに携わったが、それらが成功したのは準備セミナーでたくさんのことを学んだからだ。学校や部活と両立させて準備セミナー全てに参加するのは簡単なことではなかつたけれどきちんと参加して本当によかつた。ユネスコ活動を始めてからずっと心待ちにしてきた32カ国40チームが参加する今回のフォーラムでディスカッションの議長をさせてもらえたことは私にとってかけがえのない経験だった。去年の係決めで何をやる係なのかというのもよく分からないまま入った議長団だったが堺フォーラムを経験することによってディスカッションの魅力に気づき、この係の偉大さに気付いた。そして今回のフォーラムではディスカッションの最前線で参加させてもらうことができ、この係でフォーラムに携われたことを改めて嬉しく思った。最初は参加数の多さに驚き、自分にまとめることができるのかと不安で仕方なかつたけれど、本当にたくさんの方がディスカッションのために協力をしてくださったおかげでとても素敵なディスカッションにすることができたと思う。ディスカッションに参加してくれた全員が満足に発言できたわけではないだろう。けれど他のチームの意見にしっかりと耳を傾け、話し合いがスムーズにいくように協力してくれた。私はその姿勢や温かさに感動し、嬉しく思った。今回、参加してくれた皆は驚くほどたくさんの意見を持っていて、持続可能な社会について考えていたし、高校生でも自分の国で起きている問題や世界が抱える課題にしっかりと目を向けていた。また、世界の高校生はそれぞれが理想の未来や社会というビジョンをしっかりと持っていたのだ。そしてそれを実現するために様々なことを学び、自分たちが率先して世界をよいものにしていくという強い気持ちで様々なことに挑戦していた。その姿をみて私は様々なことを学び、まだまだ努力しなければならないと痛感した。私は今回のフォーラムに参加できたこと、ESDの活動に関わらせてもらえたこと、全てを奇跡のようなことだと感じている。この1年半は私が今まで生きてきた中で一番、出会いの多い時間であった。今まで知らなかつた事実、考え、たくさんの仲間、数えきれないほどたくさんの出会いを経験した。このような機会がなければ決してこんなにもたくさんの出会いを経験することはなかつたはずだ。全ての出会いに心から感謝したい。このフォーラムは高校生の私たちが持続可能な未来について考える第一歩になつたと思う。これで終わりではない。このフォーラムに参加した私たちがこの経験を生かして誰かのために、社会のために、環境のために貢献していくことが重要なのである。これから素敵な世界を作っていくのは私たち高校生だ。どんなに小さなことでもいい。いつもESDの考え方を心に留めておいて、行動する。それだけできっと自分たちの行動は変わる。その小さな心がけが合わさって、世界を持続可能なものにするにつながるのだ。理想の未来を創っていくのはけっして一人ではない。仲間の力を信じて、自分ができることをしていきたい。

2年 坂口 恵 おもてなし(ハイチ)

この2年間ESDに関わってきました。ESDでは運営、ファシリテーター、写録、受付、おもてなし係などなど、それぞれの役割によって仕事も異なり、このESDを通して学ぶことも、見ることもさまざまだったと思います。その中で私は3回のフォーラム中2回をおもてなし係として経験させてもらいました。ESDで一番の大所帯なので、一人ひとりの仕事はチーフを除くとシンプルなことが多かったように思います。けれど、人数が多かったからこそ、チーム内外での連携、伝達力が必要とされました。これは昨年アジア・フォーラムに初めて参加したときにも感じたことなのですが、大きなグループは一見すると一つの塊として動いているようでも、その中にはたくさんのメンバーがいて、その個人個人が正常に働くことで初めてグループ全体が正常に稼働するのです。外から見ればとても自然に見えました。けれど、私自身がその中に身を置き、歯車の一部になって、初めてそのことを知り、体験することができました。また、今回は各国のグループのリーダーにもなり、メンバーを引っ張り、上との連携を伝達、把握する役割を担いました。去年までは下について働くだけでしたが、少人数とはいえ、グループの要としての責務を受け持つ責任と重要性を感じ、怖じ気づくこともありました。けれど、グループの仲間たちがしっかりと動き、助けてくれたおかげで、私も仲間、そして全体のために力を尽くすことができたように思います。グループにリーダーは欠かせない存在ですが、リーダーにとってはメンバーこそ必要なものなのだと知りました。

2年 仙田 美緒 運営

今回の世界大会では、運営系のプレゼンテーション会場IIの会場チーフとして会場IIの係の人達と連携してスムーズにプレゼンテーションが円滑に進むように協力しました。途中様々な予期していなかつた事態、海外ゲストの方が他の会場のプレゼンテーションを見たいと希望を言われた時にも冷静に対応することができました。いままで何度か行ったりリハーサルでは、プレゼンテーションを時間内に終わらせる事が出来なかつた為、本番でも同じ事が起きるのではないかと様々な対策を自分なりに考えていましたが本番までのリハーサルの成果で今までで、1番スムーズにプレゼンテーションを実施することができました。これは会場のほかの係の人との連携がとれたのが大きかったと思いますが、海外ゲストの方も協力してくれたおかげだと思いました。その他私の担当した係では、プレゼンテーションAでファシリテーターとの連絡係です。連絡係として壇上のファシリテーターの人との連携に全力をそそぎました。宣言文発表の前のレクリエーションの時間の時にはゲストの方がどこにおられるのかを把握するために色々な係の人に協力していただいていたので色々な所を走り回っていました。ほぼ全てのことが予定どおりに進んだのは、みんなが絶対にこのフォーラムを成功させると思い、全員の連携がスムーズにとれたからだだと思います。私はこの世界大会でみんなと協力することの大切さを学びました。みんなと今回のような大きな大会を成功させることが出来るのだとも思いました。普通に学校生活を送っていたら知ることがなかつたり、学ぶことのないことも学びました。私は

この大会やセミナーで培った経験をこの先の人生に生かして行こうと思いました。

2年 佐藤 莉沙 司会

今まで積み上げてきたものの集大成として、今回の世界大会は本当に大成功だったと思います。そして今回、司会班として参加して本当によかったです。司会班は孤立しているわりには事前の確認がすごく多くて、サブチーフとして良く走り回っていました。でも走り回って、準備万端！というときの達成感がすごかったです。プレゼンのときも運営班との連携がすごくスムーズにできて、とても進めやすかったです。司会班として、笑顔、そして拍手を率先してできました。プレゼンを聞いているとき、本当に世界中からたくさんチームが来ていることを実感しました。各国での問題などを聞くことができとても良かったです。それらを踏まえて、午後はディスカッションでした。いろんな意見がでていて、本当に同年代なのかと不思議に思いました。発言を聞いていて、自分も自分ができることをやろうと思いました。ボコバさんからのメッセージなどを聞いて、この世界大会は本当にいろんな人に支えられて実現できているのだと実感しました。次の日のディスカッションCの後、ウガンダの方からユネスコの公式ソングを歌いたいという依頼があり、とてもうれしかったのですが、運営と相談した結果、お断りすることになってしまったのが残念でした。グランヴィアからコンベンションセンターまでウガンダの方を探しに全力疾走したのはいい思い出になったと思います。結局宣言文の起草委員会が予想より早く終わったため、司会班のラジオ体操は無しに。けど、起草委員会の方々が入場したときの会場の盛り上がりがすごかったです！本当にここは岡山なのだろうかときえ思いました。閉会式の司会ができて光栄でした。運営スタッフの生徒がみんな地下に集まったとき、自然と涙がこみ上げてきました。これで、もうESDが終わってしまったのだと思うと、とてもさみしかったです。ESDの活動を通してできた仲間に出会えなくなるのがとても辛かったです。みんなで3分だけ集合！というときを作ってくれた先生方ありがとうございます。本当に司会班は最高のメンバーだったと思います。別れる時も涙が流れてしまいましたが、いつかまた、世界のどこかで、絶対に会える。そう約束しました。いままでお世話になった先生方にも出会えなくなるのもさみしかったです。司会班だけでなく、運営班や議長団の先生方にもたくさんお世話になりました。今までのESD活動を通して学んだことは、みんなで一つのものをつくること、率先して取り組むこと、勝ち負けのない平和な世界を志すこと、分かち合うこと、などたくさんありました。この活動を通して、自分はおそらく人として階段をいくつか登れたのではないかと思います。ESDで学んだことは今後でも必ず役に立つので、忘れずにいたいです。

2年 松井 千乃 おもてなし (サブチーフ)

今年の世界大会に向けての役決めるときサブチーフになりたいと思いました。全然、自信はありませんでした。しかし去年の経験を活かしたいと思ったのは確かです。実際にやってみると思ったよりも大変でしたがとてもやりがいがありました。他の係とのサブチーフ会議で意見が衝突することも無理難題を言われることも多々ありました。最初はそれにとっても困りました。私では役不足だったかなと思うこともしばしばありましたが、みんなが世界大会を成功させようという気持ちが強いからこそだからと思いました。私もみんなに負けないように頑張らないといけな思いました。お互いが納得するまで意見を交わしましたしときには大学生や先生たちからも意見をもらうこともありました。去年とは規模も違うことで味わったことのない不安や緊張に襲われることもありました。そんなときは最後までやるんだと自分に言い聞かせました。10月に行った準備セミナーのリハーサルでは世界大会を目の前にして課題を多く残すものとなったというイメージでした。セミナーが終わってそれぞれの地域に帰ってもその課題をおもてなしのチーフ陣とか他のサブチーフとかと話し合いました。直接会っての話し合いは世界大会まで出来ず、またチーフ陣や他のサブチーフと話し合っただけでおもてなしのみんなに伝えるのも直接ではなかったのでもうここまでみんなが理解できているのか不安でした。おもてなしは人数が一番多く直前の変更に対応できるのか考えれば考えるほど心配でした。しかし本番を迎えるとびっくりするほどスムーズに何事もなく無事にプレゼンもディスカッションも進んでいきました。朝、ドイツのゲストがどこかに行ってしまったり勝手にホテルから出たりと数々ハプニングはありましたが大事にはならず解決できてよかったです。私たちチーフ陣は会場に入ることなく何か起こった時のために備えて会場の外で待機していたのでプレゼンやディスカッションなどは聞けませんでした。世界大会が順調に進んでくれて安心しました。こんなに順調に進んだのはおもてなしみんなが頑張ってくれた証だと思っています。ここまで人って一致団結出来るのだということに感動しました。どこかで不具合が生じると他の係りのみんながそれを補って助け合いがなかったら世界大会は成功していないと思います。おもてなしのメンバーでも体調が悪かったりして休んでいる人のためにみんながそれぞれ助け合いました。そのなかでこの大会をしながら嬉しかったことはゲストの人がありがとうと言ってくださったことです。ゲストの人がありがとうと言ってくださった時、心からこの活動をやっていてよかったと思いました。ここまでの努力は無駄ではなかったんだと思いました。だからこそ私は多くの人に感謝の言葉を伝えたいです。この大会を裏で支えてくださったホテル関係者の皆さんや私たちが移動するときにバスを動かしてくださった運転手さんやそれを誘導してくださった人たち、オープニングセレモニーに参加してくださった諸団体の人たち・・・に本当にありがとうございますと言いたいです。この世界大会をよいものにするために色んな方々がご尽力してくださったから成功したのだと思います。私はユネスコ活動に参加できてよかったですし大切な友達とも会えました。ユネスコ活動をしていなければここまで相手のために何かをしてあげたいか思わなかったと思います。それに人と出会いがこんなにも大切だと思いませんでした。何よりも他国について考えて世界の高校生と話す機会もなかったことだと思います。私に数えきれないほどのことを学ばせてくれたユネスコ活動が終わってしまうのがと

でも悲しいです。世界大会が終わったときは実感がなく家に帰ってからだんだんと涙が込み上げてきました。ユネスコ活動を始めたころは自分をこんなにも成長させてくれるなんて思ってもいませんでした。初対面の人に話しかけることが出来るようになったり、悩むよりもやってみようと思えるようになってきたり私が出来なかったことが出来るようになったのは全部ユネスコ活動をすることで必要なことだったからです。ユネスコ活動では学校で経験できないことをたくさんして、そこから多くのことを学ぶことができました。高校生でこんなによい経験が出来たことに感謝したいです。ここからは私が学んだことを生かすことが私に課された使命だと思っています。最後にチーフ陣についてきてくれたおもてなしの皆さんありがとうございました。

2年 吉岡 ゆきの 写録

1年以上かけて準備してきた世界大会を迎えることができました。準備セミナーでは、本番の世界大会に向けての準備を少しずつしていましたが、本当に本番で上手くいくのか、係内で上手く連携ができるのか、など不安なことが多かったです。ですが、いざ世界大会が始まると、他の係の雰囲気や会場の雰囲気とその不安もすっきりして、自分の仕事に集中することができました。1年目の時の感想を振り返ってみると「記録をする」ことにとらわれていた自分がいました。準備セミナーに参加して、実際に自分の役割を感じたときに、「未来に残すための記録をする」ことの大切さや、「自分が撮りたい写真を撮る」ということを学ぶことができました。また、議長団や運営、司会、オツキーズなどの1人1人が頑張っている姿が、自然に自分の中に入ってきて、いつのまにかどンドン撮ることができていました。準備セミナーでの世界大会のリハーサルが終わり、自分の撮った写真を見てみると、1人1人の様々な表情や会場の雰囲気など、自分が撮りたかった写真がたくさんありました。その時、これが自分の仕事、役割なのかと自分自身で感じ、とても嬉しかったことを思い出します。2年目になると1年目に比べてさらに階段を1段ずつ上がっていけるように、自分で今できることを考えながら行動するように頑張りました。その1つとして係内のメンバー間のコミュニケーションを大切にしようと思いました。また、人に話しかけることでただ情報交換だけではなく、他愛なことでも話す雰囲気を作るということも大切にしようと思いました。自然に話しかけることで、周りの雰囲気が優しくなり、係の仕事がスムーズにできるのではないかなと思ったからです。また、写録の仕事とコミュニケーションがセットになることで、ESDの精神である「スキルとハート」が表現でき、世界大会の成功に繋がるのではないかと考えました。また、準備セミナーの時に「心を尽くして運営をする」と井伊先生がおっしゃっていました。写録は、フォーラムの運営に直接かかわることは少ないですが、写録の仕事の重要さは、フォーラムの運営を未来に教えること、伝えることではないかなと思いました。なので、心がけない写真は相手には伝わらないと感じ、写録の役割をさらに考えながら世界大会を頑張りたいと準備セミナーの時に思いました。ですが、このことはその後の準備セミナーの時には上手くいきませんでした。まず、自分から話しかけることを躊躇してしまい、相手から話しかけてもらうのを待っていたように感じました。そのために係内での連携が上手くいきませんでした。この問題を解決するために、本番の世界大会では、どんな写真が撮れたか、いい写真は撮れたか、上手いかないかはあるかなど、お互いにコミュニケーションをとりながら、仕事をする大切さを準備セミナーの時に感じました。この反省を生かして、本番ではこまめに声を掛け合って仕事をすることができました。お互いに撮った写真を確認したり、会場内の立ち位置を相談したり、撮った写真をお互いに褒め合ったりすることができました。さらに、アシスタントである人が撮り忘れをしていても、他の人がカバーしてくれていたりと、同じ会場のメンバーで手分けして写真を撮ることが本番中にできました。さらに、昼食の時には午前中にあった出来事を話すことでリラックスし、また午後からの予定を確認することで次の行動を考えながら行動することができました。写録の仕事をしていて一番嬉しかったことは、カメラを向けると笑顔で答えてくれることです。最初は、カメラを向けると笑顔ではなく、私自身も顔がこわばってしまいました。ですが、次第に自分から笑顔でカメラを持っていると、ゲストの方が笑顔で返してくださりと、笑顔の写真を撮ることができました。そこで、笑顔の大切さを感じました。国ごとで言葉は違っても、笑顔で相手に気持ちは伝えることができるのだなと実感することができました。6日・7日の朝にあったCatch&Goでもそれを生かして写真を撮ることができました。海外ゲストの方には、6日の朝は折り紙をして、7日の朝は未来や自分に対してのメッセージを書いてもらいました。海外ゲストの方とおもてなしの方と一緒に撮るときには、笑顔で写真を撮ることができました。途中から自分も楽しく写真を撮ることができてよかったです。また、最後の宣言文採択では宣言文起草委員の方が前に並んだ時に、私も起草委員のすぐ前に行って、目の前で写真を撮ることができました。委員の方は充実感でいっぱい顔をしておられ、カメラを向けたら笑顔で答えてくださりました。夢中で写真を撮ることができ、最後の最後に笑顔の写真をたくさん撮ることができてよかったです。世界大会を終えて、自分の撮った写真が未来に残ると思うと嬉しく思います。自分の役割や、仲間と協力するために大切なことなどたくさんを感じ、思い、行動することができました。このような素晴らしいことをあきらめずに最後まで成し遂げることができてよかったです。これからの自分にこの経験が役に立つように、これからも行動していきたいです。

1年 小野田 晴美 おもてなし (ルーマニア)

今回は本番ということで、とても緊張しました。1日目は、お昼からホテルグランヴィアに行き、おもてなしで最終チェックとwelcomeボードを作りました。この時、新しく入ったメンバーとも仲良くなりながら、2日目と3日目のおもてなしする時間なども決めました。そして、ルーマニアのゲストと顔合わせがありました。そこでは、少し仲良くなれました。2日目は、朝からゲストのおもてなし担当でした。部屋まで迎えに行き、プレゼンを聞く部屋に行くとゲストと折り紙をしました。折り

紙をしながら、一緒に写真を撮ったり、連絡先を交換したりしました。プレゼンが始まってから少したった頃、ゲストが忘れ物をしたから部屋に戻りたいということだったので前半のプレゼン終了後の休憩で部屋に戻ることになりました。その時、ゲストがルームキーを持っていなかったため、急いで取りに行きました。無事に部屋に戻ることができ、後半のおもてなしの人と交代しました。おもてなしの待機室に入ると先生から資料に目を通すよう連絡がありました。そして、途中からルーマニアの発表を見に行きました。発表が終わると、急いでご飯を食べて、ルーマニアのおもてなしの人と交流していました。昼休みが終わり、ディスカッションが始まり、ゲストをおもてなしする順番になりました。おもてなしのスケジュール通り、同時通訳機が壊れていないかの確認、水が足りているかの確認、トイレの確認ができました。そして、休憩後後半のおもてなしの人と交代しました。後半のディスカッションは後ろで様子を見ました。ディスカッションが終わると、ゲストをバスまで送りました。3日目は、朝からおもてなしをする順番がなかったので、ディスカッションは、後ろでルーマニアのおもてなし人と見ました。そして、お昼も一緒に食べました。そのあとは、ゲストと一緒にコンベンションセンターに行きました。ルーマニアのゲストの男の方2人は疲れたということで、私たちのゲストだけいくことになりました。ゲストが買い物をしたいということで行きがけに『さんすて』によったりしながら少しずつ、コンベンションセンターに向かいました。そして、コンベンションセンターにつくと、ミサガ作り体験をしました。ミサガ作りが終わると、外にハコロとミコロがいたのでゲストと写真を一緒に写真を撮りました。そうしているとまたゲストがお茶などを買いたいと言ったので、『さんすて』のスーパーに行き買い物をしました。お茶についてたくさんのことを質問されました。すごく答えることが大変でした。時間になったので、グランヴィアに戻ると、起草委員会が延長しているということで、ゲストは部屋に戻りました。部屋のドアのところまでついていくと、どうぞといわれたので、入って、宣言文採択まで一緒に遊びました。アルプス一万尺をしたり、写真を撮ったりしました。宣言文採択の時間になると、下に降りて、他のルーマニアのゲストと写真を撮ったり、連絡先を交換したりしました。起草委員会が終わると、宣言文が読み上げられました。ディスカッションで話し合ったことなどがまとめられていてすごく、感動しました。宣言文採択が終了すると、ゲストとお別れしました。本番は、準備セミナーで考えていたより大変でした。でも、海外ゲストと仲良くなれたし、自分にとって、とても良い経験になったと思います。海外ゲストの方は、英語がペラペラだったので、いい刺激になりました。このユネスコの準備セミナーや会議で学んだことを生かして、生活していきたいと思います。

1年 大谷 萌子 おもてなし (セネガル)

約半年におよぶ準備セミナーを終えて、3日間の高校生フォーラム世界大会が幕を開けました。準備セミナーでは感じなかった緊張感がありました。ゲストとの初対面はドキドキわくわくもあつたけれど、少し不安もありました。セネガルの人たちは笑顔で受け入れてくれて、自己紹介、ポストカードなど、短い時間を有意義に過ごすことができました。フォーラム1日目、準備セミナーとは全然違うような感じでした。各国のプレゼンテーションを見ることができました。それぞれの国の人がさまざまな問題を提議して考えを述べていました。歳が近いゲストの隣に座しているとき、少し緊張してしまって、事務連絡や「だいじょうぶ」と聞くだけで、普通に会話を自分からすることはできませんでした。しかし、お昼のとき、ゲストとおもてなし8人で、いろいろな会話をしながら食べることができました。2日目は朝からスムーズに行動することを心がけ、昨日よりも笑顔で迎え、なるべく安心してもらうことを意識しました。昨日はあまり話しができなかったため、休憩時間の間は、海外ゲストと家族について、日本についてなどを話すことができました。ディスカッションCではチーム全員が揃い、拾い大きな会場で行われました。「持続可能な社会」とはひとつではなく、さまざまな形態があるということが分かりました。今からできることもたくさんあり、私も実践して、多くの人に広めていきたいと思いました。ゲストとのお別れはとても寂しかったです。しかし、私はこのフォーラムでたくさんのものを得た気がします。言葉が通じなくても、心は通じるなど、数え切れないほどです。この達成感が得られたのは、今まで何度も準備セミナーを行い、リハーサルをして頭の中にイメージすることができていたからだだと思います。この経験は私のこれからの人生に何かしら影響を与えてくれると思います。本当にありがとうございました。

1年 奥田 晏子 おもてなし (スペイン)

最初は「英語が通じなかったらどうしよう」と思っていたけど、案外スムーズに自己紹介することができました。周りの生徒たちのサポートもすることができました。ゲストの女の子もすごく親切にしてくれました。2日目では会場案内をしっかりとすることができました。休憩時間もすごく楽しく話すことができ、お互いにリラックスして時間を過ごしました。まだまだ知らない単語がたくさんありましたが、しっかりと会話をするのができてよかったです。スペインの発表はすごく分かりやすくすばらしかったです。すごく感動しました。その後のディスカッションABも、しっかりとゲストのことに気を遣うことができました。3日目はとうとう全体ディスカッション。会場全体の空気がキリッとしました。私も最後の最後まで気を引き締めよう、と言う気になりました。スペインはすごく積極的に手を挙げて、すごく良い意見を発表していました。同じ高校生とは思えないほどの発表でした。ゲストは、「寂しいわ。絶対あなたのことを忘れない。」と言ってくれたので、本当に嬉しかったです。また、このような機会があれば、是非参加して、今回よりもっと良いおもてなしをしたいと思っています。

1年 城内 真理子 装飾

今回ユネスコ・スクールESD高校生フォーラム世界大会に装飾係として参加することができて本当によかったと思っています

す。私は装飾係としてホテル・グランヴィア岡山の中の会場の装飾を担当していたので他の係と比べるとあまり海外ゲストの方々と交流することはできないと思っていましたが最後のほうで写真を撮ってもらったり途中で向こうのほうから少し声をかけていただいたりできたので、少なからずいろんな国の人たちと交流することができてよかったと思っています。途中の準備などでは連絡の不具合などもあり、少し億劫になったりもしていましたが、今回の会場の装飾で紙のお花や海外ゲストの席に置かせてもらった折り紙のこけしを見て喜んでくださった海外ゲストの方々の顔を見ることができたり「すごいね」とか「がんばったんだね」などという言葉をかけてもらえたときは本当にうれしかったです。装飾係はディスカッション中特にするのがないので海外ゲストの方々の持っている意見をちゃんと聞くことができました。とても貴重な時間でした。やはり、住んでいる場所・環境や周りにいる人たちが違う人たちはもっている意見も変わってくるので自分とは違う意見をもった人たちの意見を聞くことができて本当に楽しかったです。ただ、その違う意見でもその先にある根本的なものはこれからの未来のために何ができるのか・何をしていけるのか・どのようにしたらいいのかということを考えている内容でした。いろんな意見を聞いたことでこれから自分ももっといろんな人と意見を交換していかないといけないと思いました。あらためて、今回このような素晴らしい高校生フォーラム世界大会に参加できたことや携わることができて本当にいい経験を積むことができたと思います。今回で最後なのがとても残念です。また、このような機会があればぜひ次も参加したいと思います。

1年 竹内 ゆい おもてなし (パキスタン)

まずは、この世界会議が実現し、成功に終わったことを、嬉しく思います。半年間だけしか参加していないものの、胸いっぱい達成感に包まれています。ハプニングは絶えず付きまといました。一対一の実践経験の不足の所為か、最初におもてなし係内での役割分担の表を見た時から困惑が広がっていました。一人でゲストを相手にするとは思っていなかったからです。おもてなし係間での意思疎通や情報伝達も二日目までは完ぺきと言えず、小さい混乱もありました。二日目のキャッチ&ゴー作戦実行の時、迎えに行く係の人がゲストの部屋を把握していなかったこと、昼休憩でチーフへの連絡がうまくいかなかったことなど、仲間と連絡しあって乗り切ることができました。それよりも大きいのは、パキスタン人の友人ができたことです。パキスタンからのゲストは気さくな女の子で、フェイスブックやラインのアドレス交換をしました。このつながりが新しい何かを生むかもしれない事に、ワクワクしています。世界中からあんなに大勢の同年代の若者たちが集まって、一つの結論を作り上げる瞬間に立ち会えたことが誇らしいです。岡山や大阪から来た高校生スタッフ、運営に携わった大人の方々、遠路はるばる来てくれたゲスト、そしてこのフォーラムで採択された宣言文を知った人皆が、一パーセント増しの努力をするだけでも案外周りの環境が変わるかもしれません。他人のする200パーセントの努力を期待する怠惰さは、いずれ破滅を呼ぶものになるでしょう。積もった塵は崩れ落ちて地球を破壊する災厄になるのか、大きな山となって地球を守るものになるのか、ディスカッションに参加しなかった私たちおもてなし係りでも始められる小さな努力を守りたいです。

1年 竹中 久美子 おもてなし (デンマーク)

11月5日；開会式とデンマークのゲストの人と挨拶をしました。英語で結構話しかけられて、聞かれたことは大体は理解できましたがうまく表現できず、もっと英語を勉強しなきゃと思いました。11月6日；今日はディスカッションABがありました。前半のディスカッションを担当しました。どの国のプレゼンも同じ高校生には思えないほどしっかりしていて驚きました。いちばん驚いたのは通訳の人です。生で通訳を聞けていい経験ができました。ゲストの対応もとてもいい経験ができました。たけのこの里をプレゼントしたら、デンマークのマグネットとお菓子をくれました。あまり言葉でのコミュニケーションはとれませんでした。頑張っただけで伝えようと思えば理解してくれて、とても嬉しかったです。しかし、失敗もしてしまいました。休憩時間にゲストが部屋に戻ると言って、2時にフロア集合と約束し別れた後、おもてなし係の付き添いなしに外出してしまったのです。私たちは外出にはおもてなし係の付き添いが必要なことを伝えておらず多くの人に迷惑をかけてしまいました。11月7日；今日はディスカッションCがありました。今回は後半を担当しました。ゲストとたくさん写真を撮ってコミュニケーションも昨日よりとることができました。同じ失敗を繰り返さないよう、休憩時は部屋の前に待機して、外出時は付いていかなければならないことを伝えました。笑顔で接すればうまく表現できなくても精一杯おもてなしはできたのでよかったです。チームの人とも協力してたくさんの人と支え合っただけで無事高校生によるフォーラムを終えることができました。最後は涙を流している人もいましたが、みんな笑顔でサヨナラできてよかったです。この貴重な経験をこれからの人生に活かしていきたいです。

1年 ポスル 慧麻 おもてなし (フィリピン)

今日はユネスコスクール高校生フォーラム世界大会の初日でした。フィリピンの生徒は地域交流会で、前日に私たちの学校を訪問して下さっていたので、フィリピンの生徒が私のことを覚えていてくれて嬉しかったです。また、授業のときに同じグループで活動したゲストが、私が担当するゲストだったので、とても仲良くすることができました。2日目はプレゼンテーションとディスカッションがありました。興味をひくようなスライドを、伝えたいという思いの込められた内容で、とても感動しました。同じ歳でもこんなにも違うのかと思い知らされました。また、担当のフィリピンチームを間近で見ているすごいなと思い、いつか私にもできるかなと考えていました。午後のディスカッションでは各国の代表が各国の事情を踏まえて発表しました。とても分かりやすかったです。与えられた時間の中での発言とは思えず、ただただ感心していました。最終日は全

体ディスカッションと宣言文作成でした。私の担当のゲストが宣言文の担当だったために、コンベンションセンターには同行できませんでしたが、ゲストに対して、一番に「お疲れさま」と言うことができ嬉しかったです。また写真もたくさん撮って良い思い出ができました。高校生では体験できないような体験をすることができて良かったです。またこのようなイベントがあれば是非参加したいです。

1年 米田 美樹 おもてなし (タイ)

ユネスコスクール高校生フォーラムが終わりました。振り返るとあつという間の2日間でしたが、今までにないくらい本当に充実したものでした。私は直前に都合でバーレーンが不参加になり、タイに変更になりました。フォーラムが始まるまでえはとても不安でした。でもタイチームもメンバーの人たちは優しく接してくれて安心しました。ゲストに対面したときは緊張していましたが、優しい笑顔で「Hello」と言ってくれたことで緊張がとけて、同じ担当の生徒を含めて4人で楽しく会話することができました。私が担当した人は、私のつたない英語をちゃんと理解してくれるし、気軽に話しかけてくれて、本当に嬉しかったです。あと、思ったよりも喋ることができたので、よかったかなと思います。各国のプレゼンテーションの内容を見るのはとても良い機会だったなと思います。他の国の私たちと同世代の人たちが、ESDという共通のテーマから、どういう風にアクションを起こして活動しているのか、とても興味深いものでした。特に私が驚いたのは、ディスカッションです。自分たちの意見を発言するために、拳手の多さに本当に驚きました。質問のときに発言を繰り越されるチームが続出するのを見て、日本のみで行ったディスカッションを思い出し、日本はやはり消極的なのだと感じました。最後の宣言文採択の際も質問が多かったのが印象的でした。ESDの活動は実質的に今年がまとめの年だったけれど、この活動はこれからも私たちが広めていかなければならない。ここで終わらせてはいけなくと強く思いました。今回のフォーラムを通して、また私が担当していた方とLINEをして、いつも思うのは自分の英語力のなさです。同じチームでとても英語が上手な生徒がいて、私はあれくらい話せたらいいなあと何度も思いました。言葉がなくても友情は育めるかもしれませんが、最終的には言葉の壁にぶつかります。もっともっと英語を頑張らなければならないと改めて痛感しました。今回のフォーラムを通して再認識できたのがよかったと思います。これからもLINEなどで交流を深めながら、そしてESDの宣言文の内容を心に留めながら、毎日の生活を過ごせたらと思っています。

1年 内田 夏帆 おもてなし (チュニジア)

あつという間に、本番が来てしまいました。海外ゲストと顔合わせをして、やっとう本番なんだと実感しました。最後の準備フォーラムから、とても経っていたので、一日目では、なかなかスムーズに動くことができませんでした。しかし、同じチームの子たちとは、とつても仲良くなって、助け合える関係になることができました。ゲストとの顔合わせでは、上手に話すことができず、とつても不安になりました。でも、1対1でおもてなしするため、自分のゲストの方と話すことができました。もう少し英語を勉強して、自分から話しかける勇気をもてたら良かったなと思いました。ディスカッションでは、自分と同じ世代の人達が発言をしているとは思えないほどの意見ばかりができて、もつと自国の事について考えなければいけないと思いました。しかし、他の国でどんな事が起きていて、それを解決するための方法を知る機会になったので、とつてもいいディスカッションでした。ディスカッションを行っている時、たくさんの係の人達の力によってこのフォーラムが出来ることがよく分かりました。また、参加する時は別の係をやってみたいなと思いました。2日間ゲストの方と一緒に行動して、大変な事の方が多かったです。1日目ということもあり、初めての事ばかりで失敗したこともありました。でも、最後にはフォーラムが成功して、達成感を感じることができ、やりがいを感じました。そして、このフォーラムに参加した人として、たくさんの人にこの活動を伝えていきたいです。

1年 郷原 雪枝 おもてなし (ロシア)

とうとう高校生フォーラムも終わってしまいました。1日目は海外からのゲストとおもてなしの顔合わせがあり、初めは、うまく話すことができるかなあ、しっかりゲストを誘導することができるかなあ、などと不安もたくさんあり、緊張もしました。けれど、自分から話しかけることができたし、話をするうちに相手の国のことも知ることができたのでよかったと思います。また、スキルだけでなくハートも心がけることができました。思った事や伝えなければならないことを英語にして言葉にだすのは大変でしたが、自分なりにがんばって話すことができたのでよかったと思います。ディスカッションでは、おもてなしの係以外にも高校生はもちろん、大学生や同時通訳をする方や、言語ボランティアの方、岡山市の方などたくさんの方々もフォーラムを成功させるためにがんばっていて、とてもすごいなあ、とおもいました。団結することの大切さや素晴らしいさを感じました。予定どおりにいかななくて今どんな状況なのか分からなかったり、直前の変更などでばたばたしたりしたときもありましたが、同じチームの人と協力してなんとか乗り越えることができたのでよかったです。約半年間、準備セミナーで学んだことを生かし、みんなで協力してフォーラムを行うことができたのではないかと思います。日本以外の国の高校生と話す機会はあまりないので、貴重な体験ができて、とても嬉しいです。

1年 小林 由衣 おもてなし (レバノン)

今回、こんなにたくさんのいろいろな国から来た高校生と共にこのフォーラムができて、とてもうれしかったです。人数はき

いていたものの、実際に会場が高校生で埋め尽くされているのを初めて見たとき、本当にできるのかなと正直不安でした。言葉もきちんと伝わるかわからないのに、3日間ともに過ごすだけでなく、おもてなしができるのかとても緊張しました。ゲストの方の見た目がすごく大人っぽかったのですが、私のあやふやな英語を一生懸命理解してくれたことがとてもうれしかったです。英語が話せなくて沈黙状態が続いたらどうしようというわたしの心配もわたしの担当だったレバノンの人の優しさで、吹っ飛びました。でも、実際におもてなしをするにはどんなことをしたらいいのかわかりませんでした。とりあえず会場においてあった折り紙をやってみると、すごくよこんでくれてうれしかったです。ほかにも、日本語で彼女の名前を書くと、アラビア語で私の名前を書いてくれたり、あいさつの仕方をおしえてくれたり、直接話したからこそ得るものがあり、すごくうれしかったです。心配していた会話もジェスチャーなどで通じることが出来ました。直前になって、担当国が変更になって、戸惑いもありましたが、そのおかげで、より多くのひとと関わることが出来てよかったなと思います。普段の生活では体験できないことを今回のユネスコで体験することが出来ました。いろいろと準備セミナーではうまくいかないこともありました。結果として、みんなの力を合わせて達成感のあるフォーラムにすることができ、参加していてよかったなと思いました。これからの将来に役立てるよう、また思い出として、心にしまっておきたいと思います。

1年 佐藤 里奈 おもてなし (フィジー)

1月5日から7日までの3日間、私は高校生フォーラム世界大会のスタッフとして参加させていただきました。この3日間で普段の生活では到底体験することのできない、数多くの素晴らしい経験を通して、たくさんの人々や出来事からいろいろなことを学ぶことができました。私は、この大会でフィジーから来た代表のみなさんを担当するおもてなし係になりました。仕事には不安を感じていて、この大会を成功させられるか心配でした。本番ではゲストが体調不良で2日間来なかったり、ゲストが行方不明になったりと、ハプニングがありました。大会までの半年間に参加した準備セミナーで身につけたことや、同じフィジーのおもてなし係の人との協力体制や、以前のリハーサルでの失敗した経験など、すべてを最大限に生かすことで、迅速に問題に対応することができました。また、海外ゲストによるプレゼンテーションやディスカッションを見たことによって、自分と同じ高校生たちが真剣に世界のあらゆる国や地域の抱えている問題に対して向き合っていることに驚くと同時に、私も日本だけでなく、もっといろいろな国や地域に目を向け、そこで起こっている出来事に関心を持ち、向き合うべきだと実感しました。そして、この大会に参加した自分が、海外ゲストが伝えてくれた考えや意見を、学校のみんなや地域の人々に伝え、自分が経験してきたことを多くの人々に広めていきたいと思いました。

1年 高原 悠希 おもてなし (ウガンダ)

約半年間準備セミナーを重ね、とうとうユネスコ世界フォーラムを迎えました。正直月1度はせつかくの休みがつぶれてしまうことがいやなこともありましたが、終わった今は、やって良かったと思っています。私の担当の国のゲストはウガンダの方でした。ウガンダでは森と水を大切にしているそうです。また愛が最も大切なのだと言っていました。日本には十分な水資源があります。それに依存して水を大切にすることを忘れてしまっていることを改めて気づかされました。また自然や人を愛することで持続可能な社会を作っていけるのではないかと思います。今回ユネスコスクール世界フォーラムに参加したことで、世界の多様な価値観に触れることができたのも大きな思い出ですが、ゲストの方と交流したのも良い思い出となりました。もともと英語を話すのは好きでしたが、コミュニケーションを取れるかという、あまり自信がありませんでした。でも今回は自分のできる精一杯をやったつもりです。「おもてなし」ができたと思います。これをバネにもっと多くの海外交流を行ってみたいと思います。今回は貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

1年 野中 麻衣 おもてなし (インドネシア)

最初は友だちに誘われてユネスコスクール高校生フォーラム世界大会におもてなし係として参加することになりました。外国人と話したり、ディスカッションを聞くだけと思っていましたが、第1回目の準備セミナーでの活動に参加してみると、これは軽い気持ちではいけないと思い、世界大会の大変さを感じました。準備セミナーの回数を重ねるとともに、他校との友だちととても仲良くなり、本番に近づいていくごとに世界大会がとても楽しみでした。高校生フォーラムの世界大会の1日目は海外ゲストとの顔合わせでした。ゲストに会うまではとても緊張していましたが、ゲストがとても笑顔で握手してくれたので、緊張が和らぎました。ゲストと話しているときに、自分の英語力のなさにあきれました。もっと英語を話せたら、もっと楽しい会話ができるのにと、今までの怠けていたことを後悔しました。世界大会の2日目はゲストともっと話せるように頑張りました。2日目は朝からキャッチアンドゴーがあり、ゲストと一緒にプレゼン会場へ行き、受付を済ませることができました。ゲストとおもてなし1対1で不安でしたが、笑顔でなんとか乗り越えることができました。プレゼンテーションまで時間があつたので、ゲストと一緒に折り紙を折りました。英語で説明するのは難しかったですが、鶴を折ることができました。午後はディスカッションがありました。司会が意見がある人は国名の札を上げて下さいと言うと、たくさんの札があがり、驚きと共に感動しました。私と同じ高校生が、高校生とは思えないような意見を言っていて、見習わなければいけないなと思いました。3日目はディスカッションCが行われ、2日目に出た意見などをもとにみんなで話し合いました。その後は、岡山駅へ行きゲストが買い物をしました。会場に戻ると、起草委員会の時間が延びていたので、写真を撮ったり、SNSを交換したりし

ました。そして、準備していた日本の扇子を渡しました。するとゲストの人たちがとても笑顔で目に涙を浮かべながら喜んでくれました。そして宣言文採択が始まり、宣言文が読まれました。持続可能な社会にするために、こうやって世界の人たちが集まってディスカッションをすることは良いことだと思いました。そしてゲストとお別れの時、ゲストとしっかりハグをして、またいつか会いましょうと言いました。出会ったときはこんなにも仲良くなれるとは思っていませんでした。すべてが終わり、岡山駅地下道通路で大阪の人たちとお別れをしました。いつかまた合える日が来たらいいなと思います。今回のユネスコスクールに参加することができて本当に嬉しかったです。このような貴重な機会を得ることができて幸せでした。

1年 藤原 杏子 おもてなし（ブラジル）

私は今回のユネスコスクールで、とてもたくさんの方のことを学びました。いろいろな国の高校生が岡山に来てくださり、それぞれの国の文化も初めて知ることがたくさんありました。大阪の高校生の人たちとも協力しました。ブラジルの方はとても元気な人たちです。ずっと踊ったり、歌ったりしていました。ユネスコの世界大会の準備セミナーのときから、おもてなしの先生たちが「本番のときには何が起きるか分からない」と言っていました。本当にそのようなことが起きました。お昼ごはんは「マクドナルドに行きたい」と言われたり、ゲストがどんどん先を歩いてしまっはぐれそうになったり、とても大変でした。マクドナルドに行くときにも英語で会話するのは難しかったので、英語はとても大切な言葉だと実感しました。そしておもてなしをするのは大変な仕事だと改めて思いました。休み時間には他の国のゲストの人と楽しく話していたりしたけど、ディスカッションが始まると集中して一生懸命考えて発表していて、すごかつこいいなと思いました。昼休憩のときは外に出て買い物に行きました。折り紙は日本の物なので喜んでいました。本屋に行くと、ブラジルの友だちに日本の有名な漫画をお土産に買っていました。おもてなしの仕事はとても大変だったけど、喜んでくれたので達成感があります。最初は不安だったことがたくさんありましたが、ユネスコに参加できて本当に良い経験になりました。

1年 船越 史佳 おもてなし（メキシコ）

いよいよ半年間の準備の成果を発揮するときにやってきたと思いました。5日私はどんなゲストにつくのかわくわくし、また、ちゃんとサポートできるのかとても不安でした。初めての顔合わせの時、何を話せばいいのか分からなくて、うまく会話をする事ができませんでした。会話がとぎれると気まずい、ゲストにはそんな思いはさせたくないと思ったので、次の日は頑張ってお話しようと思いました。6日、私はキャッチアンドゴーの係ではなかったことで少し気が楽でした。朝の係会はずごく張りつめた空気で、みんな緊張しているのだと思いました。私は携帯で連絡をとることができないので、ゲストの受け渡しの場所などを綿密に確認しました。私はプレゼンテーションの後半からゲストにつきましました。私の担当はジェシカという17歳の人でした。後半ではすでにメキシコの方のプレゼンが終わっていたので、休み時間にしっかり会話しようと思いました。私は小さな折り紙と一緒に折りました。楽しんでくれていたように見えたので安心しました。お昼休みにハプニングが起きました。お弁当を食べたあと、メキシコのゲストはホテルの部屋に戻ったのですが、突然彼らだけで外に出てしまいました。係内の連携でなんとか追いつき、楽しく買い物をしてもらいましたが、すごひやひやしました。予想外な出来事が起こるのが本番、こういうときに報告、連絡、相談がとても大切だと思いました。午後のディスカッションでは、ゲストたちが国単位で意見を交わし合う様子に圧倒されました。発言の内容も、同じ高校生だとは思えないくらいしっかりしていて、すごいと思いました。ディスカッションが終わり、会場を出るとき、私はもうひとりの生徒が担当のゲストの忘れ物を見落として、そのまま会場を出てしまい、ゲストを不安な気持ちにさせてしまいました。これが二度と起こらないように気をつけようと思いました。7日、もうお別れしなければならぬのかと、とても寂しい気持ちになりました。たったの2日間でしたが、すごく中身が詰まった経験をさせてもらうことができました。ゲストの人と写真を撮って、メッセージも書いてもらえたので嬉しかったです。半年間の成果が出せたと思います。いろいろハプニングもあったけど、成功したと思うので、結果的には良かったです。私はこの経験を忘れず、これからの人生に生かしたいと思います。本当にありがとうございました。

2年 白神 真衣 受付

今日でユネスコスクール世界大会 Student（高校生）フォーラムが終わりました。最初はESDの精神を学んだり、自分になった係りの仕事を覚えたりなど、基本的なことをしていたのにも関わらず、なにをすればいいのか分からなくて突っ立っているだけしかできなかったのですが、準備セミナーを通して少しずつ慣れてきたおかげで、覚えれたこともありました。そこで学んで印象に残った言葉があります。それは、6月15日に開かれたセミナーのしおりに書かれてあった「欲張らないこと」ということです。これは当たり前なのですが、当たり前ではないのです。なぜなら人間は必ず欲があって、欲があるからこそ成長できるという言葉聞いたことがあるからです。しかし、欲があるということ、欲張るということは違うということに気づき、恥ずかしくなりました。本番になるとやはり不具合が出るようで、今まで決めていたことを変更することが多かったので臨機応変に対応することに力を入れました。5日は、今まで使っていた名札と新しく配られた名札を着けて活動しました。人数が足りないとの事だったので本来はドアの開閉係りだったのですが、受付を一日だけ担当しました。受付では海外ゲストの方の名札と日本ゲストの方の名札をお渡しするとなっていたので、相手の国名とお名前確認と人数確認するのに苦労しました。ゲストの人数が足りない会場に入っただけなので待っていただいたり、いない人の分の名札を持っていかれようとしていたので、事情を説明することはとても難しかったです。そして、ドアの開閉を甘くみていたのが原因で、ゲストの

方や先生方が入出する際にスムーズに対応できませんでした。6日は、5日にドア係りに慣れていたおかげでスムーズにゲストや先生方を入出させることができました。運営やおもてなしの人数がたりなかつたのでドア係りの他にお手伝いをさせていただきました。それで、運営やおもてなしの方との連携と多くの変更により5日より臨機応変に対応できたので役に立てました。その他はドアの開閉とゲストの方々への挨拶が主な仕事でした。連携をしていたおかげでプレゼンテーションを聞くことができました。そこで話されていたことをまとめると、／ESDについて知る必要がある／ゴミや無駄遣いが多い／貧困・格差がある／資源の有効活用する必要がある／日々の学びが少ない／一人ひとりの意識が低い／周りや自分たちの暮らしに対する意識が希薄／現状を支えようとしている、とのことでした。7日は、朝はドアの近くで同時通訳機を海外ゲストの生徒さん以外に配ったり、いつも通りドアの開閉を担当しました。その間ディスカッションを聞くことはできませんでしたが、最終日ということもあり、4人ではなく2人でしているとは思えないほどの働きぶりを発揮することができました。ホテルグランヴィアの外から帰ってこられた海外ゲストの方々にアンケートを配りました。その時に「こんにちは。お疲れ様です。」と言われたので日本人の方かと思って素通りさせてしまったので申し訳ない気持ちになりました。しかし、英語で対応した後に「英語上手だね。」と言ってくださったので嬉しくなりました。そして、宣言文採択が終わった後見送る時に何回も聞いて覚えてくださったのか、「ありがとう」と言われた方もいてまた嬉しくなりました。岡山駅南地下通路で全体のお別れ会をした後に係り別のお別れ会をしたときに受付案内ってこんなにも仲が良くなっていたんだなあと思いました。最初の時は人みしりということもあって、話しかけるのもままならなかつたのに今ではこんなにも仲が良くなっていたのかと思うとお別れが少し悲しかったです。でもそれと同時に、仲良くなれたという喜びも感じました。私はユネスコに参加することで多くの大切なことを学ぶことができました。こんな良い機会に参加できてとてもよかったですと思いました。普通なら会えない人や、経験できないことを長いようで短い期間の中で出会って、学べてとてもいい経験になりました。今までお世話になりました。本当にありがとうございました。

2年 林田 理瑚 おもてなし (大韓民国)

今回が本番で最後のフォーラムでした。半年間ユネスコスクールの生徒としてすごく成長できた気がします。この3日間は私の中ですごく心に残るものでした。1日目ではおもてなし係としての最終確認の時間になったと思います。この半年間準備セミナーで教わり続けたことをもう一度考え直すことができました。そして海外ゲストとの初めての顔合わせでは、不安と緊張でいっぱいでしたが、実際に会ってみると相手も快く接してくれて、ちょっと安心しました。2日目ではおもてなし係として、海外ゲストと接することがほとんどでした。一番に感じたことは英語がもっと話すことができたら良かったと思いました。海外ゲストはただでさえ、異国の地に来て母語を使うこともできません。プレゼンテーションのときには、不安と緊張しているのが目に見えるほどでした。しかし私はうまく英語を話せないのが、海外ゲストの不安を取り除くことができないばかりか、ろくに話しかけることもできませんでした。すごく自分の力のなさを実感させられました。また今回日本に来た海外ゲストのほとんどが英語を話せていることに驚きました。いろいろな部分で日本という国を改めて考えさせられる一日になりました。3日目にはようやく雰囲気にも慣れて、海外ゲストにも心を開くことができたように思いました。英語が話せることにこしたことはないですが、そんなに上手に話せなくても、相手がなんとなく理解してくれたことがすごく嬉しくて今でも思い出します。またたくさん海外ゲストとも写真を一緒に撮ることができて良かったです。3か国が1つの場所に集まり、世界について語る、そんな場所にいることができたことを嬉しく思い、また一生の誇りになりました。そして国際交流というものがこんなに楽しいとは思いませんでした。今回ユネスコスクール世界大会に参加してみて、これからもこのような活動に積極的に参加しようと思いました。

2年 上野 瑞希 おもてなし (ニュージーランド)

1日目。初日で、とてもドキドキしていました。昼からの開催だったので、あつという間かと思っていたのですが、この3日間の中で一番長く感じた日でした。前回のユネスコでニュージーランド担当として移動してきたので、まだ同じグループとの距離感がありこの3日間大丈夫かな？という気持ちになりとても不安でした。『どんな感じなんだろう？』や『どんな空気感なんだろう？』など考え過ぎというくらいとても印象に残っています。初めて担当のゲストにあつたとき、『えっ！こんな感じで会うの？』という感覚でした。ゲストの人と話すときは、全然積極的に話せなかつたのがとてもショックでした。そんなこんなで、1日目は、あつという間に終わりました。2日目。2日目は、とても忙しかったのを覚えています。ゲストを迎えに行き、プレゼンの会場へ行き、他の国のプレゼンを聞き、その後、ニュージーランドの発表。その間の、折り紙折りのときがとても緊張しました。ですが、ゲストの人が話しかけてくれてとても話しやすかつたのか、たくさん話せました。そんな小さなことの喜びがとても大きく感じました。これもユネスコならではのなあと感じました。日本語の本を持ってきていたりして、みんなで話をしたりと、とてもこのゲストたちがいてよかつたなあと感じました。大変だったのが、移動のときです。たくさんの方がいるのがありますが、おもてなしとしてちゃんと出来ていなかったところ。場所がわからず、困っていたらゲストの方が『あつじゃない？』と言ってくれたり、言葉の壁なども感じました。2日目が終わって家に帰っているとき、言葉の壁は、『自分が勝手に決めて納得しているだけだ！言葉じゃなくても自分の気持ちの持ちようだ！』と思われた2日目でした。3日目。3日は、ラインでのやりとりが多かつた日でした。2日目の反省をしっかりと、それにならないようちゃんと行動出来たと思います。とても、スムーズに出来ていたのと、2日目よりたくさんしゃべれていたのを感じました。フリー

タイムのとき、ゲストは、買い物に行きたいと言ったので、みんなで買い物に行きました。ニュージーランドは、物価が日本より2倍くらい高く、とても安いとたくさん買っていました。最後に、ワッフルをみんなに買ってくれました。最後に、噴水で幼稚園生と写真を撮ったのがとてもたのしかったです。そして、最後のゲストを見送るのは、本当にあっさりで行ってしまったのがさみしかったです。3日目があつという間で終わってしまったのを覚えています。私は、この3日間とても自分のためになったと思います。1日1日がとても考えさせられ、答えを見つけようとするのですが、それが本当の答えなのかかわからず…ということがたくさんありました。でも、プレゼンで『答えを出さないことの大切さがある。』という事の意味にとっても共感を覚えました。そして、私たちが担当したニュージーランドのプレゼンで1番印象的だったのが、『たくさんの国と貿易をしている我が国（ニュージーランド）では、沢山の文化を取り入れ、たくさんの人と触れ合い、たくさんの人との価値観を取り入れていくということ。そういうところの大切さがあるのだと思います。』…とても心に響いた言葉でした。私も、ユネスコ世界大会のようなところで、たくさんの人たちと触れ合い、新しい考え方、価値観などに少しでも触れていきたいと思いました。ユネスコは、私の中でとても大きなきっかけを作ってくれた、そして、自分の考え方を広くしてくれたとても貴重な3日間でした。本当に心から参加してよかったと思いました。

2年 小泉 杜瑛 おもてなし（ガーナ）

私が今回のフォーラムに参加して一番強く思ったのは、もっと私は勉強をしなくてはいけないということです。世界中のたくさんの方から人がやって来ていて、あんなに色々な国の人が入り乱れた光景は初めて目にしましたし、圧倒されました。たくさんの方の国の人がいるからこそ、みんなそれぞれ違う視点で、とても興味深い内容でした。私もディスカッションやプレゼンテーションを聞いていて、自分の意見と比べてみると、そんな考え方があったのかと驚くこともあり、それと同時に自分の無知と勉強不足に気がつくこともありました。ゲストと話すときにも私が英語をうまく話せないせいで、ゲストに不便な思いをさせてしまうこともあり、もっと勉強しなくてはという気持ちになりました。今までたくさん準備をしてきて、そのおかげもあってか私の中ではちゃんとと思った通りに行動ができて、その点においては私なりに頑張ったのではないかと満足しています。こんな経験は最初で最後なのではないかと思うほど貴重な大会に参加できました。この大会で少しは私も成長できたはずだと思います。ここで学んだこと、思ったことなどを忘れずに心に留めて、これからの私の人生に役立てていけたら嬉しいです。

今思うと、歓迎夕食会やエクスカッションにも参加しておけばよかったと後悔しています。もっと色々な国の人と話して友達になってみたかったです。私が担当したゲストの方に日本の印象を聞いてみると、「hospitality」だと言っていました。日本の人は優しく、暖かいとも言っていました。私はとても嬉しく思ったと同時に、その印象を崩してしまいたくなく感じました。もし私がなにか粗相をしてしまったら気分を悪くして日本はこんな国だったのかと幻滅されてしまうかもしれないと思うと、少し緊張しました。でも私が担当したガーナの人達も十分優しく暖かく、とても安心したのを覚えています。こんなに楽しく、自分のためになる大会に参加できたのを嬉しく思います。私が今回の大会で身につけた知識や思い出を活かして、これからも精進していけたらと思っています。

2年 石田 有沙 受付

今回私がユネスコスクールで学んだことはとても大きかったと思います。初日は海外ゲストの方がたくさん来られて、ネームタグを配ることが受け付けでの役割でした。席の場所を伝える時に、少し手こずってしまい、やはり英語で物事を正しく伝えることができるようにならなければ、と思いました。文法や表現がおかしくても伝われば良いと思っていましたが、場所の説明や時間の遅れの説明が不慣れで、しかも海外ゲストの人にとっては必要不可欠な内容なので、説明の仕方も勉強することが大切だと感じました。次の日の仕事はプレゼンテーションの受付でした。私は受付場所の4つのうちの1つがあるホワイエでの受付でした。受付が3つある階よりもスムーズに始まり、早めに終了することができました。プレゼンテーションは南アフリカやインドを見て、南アフリカの貧困問題やインドの教育方針なども知りました。同じくらいの歳の方が情熱的に語っているのを見て、やはりこのフォーラムを良い物にしたいと強く思いました。その次の日はディスカッションAとBでした。私はディスカッションAの担当でした。受付も終わりディスカッションAを見ているとき国を超えた関わりを感じました。2つ目の質問で、フィジーが手を挙げました。彼女はパートナーがいなくてひとりでした。隣にはデンマークの人が座っていました。デンマークの人はフィジーの人のことを心配そうに見ていました。フィジーの人が発表したあと、デンマークの人も笑顔でした。このフォーラムは本当に国も肌の色も関係なく、自分の言葉で意見を伝えることができる、すばらしいものだと思います。今回参加することができて本当に良かったです。

2年 尾崎 沙和 おもてなし（ケニア）

5月から準備セミナーに参加し、たくさん準備してきたものの本番がついに来たんだ、最高のおもてなしをしようという気持ちで参加しました。ケニアの人に会ってそうそう、とても親しみやすく英語もペラペラで刺激を受けました。すぐに仲良くなって、1日目が終わると、はやく明日になって欲しいと思う位楽しみでした。2日目はそばにいたことが多く、その人の人柄がわかり、より仲が深まりました。おもてなしをすると、必ず返ってくる”thank you”という言葉が私の支えであり、気持ちよくなりました。どんなことでも”thank you”は忘れてはいけない言葉だと思います。ディスカッションでは国によって

色々な意見があり、私の考え方もわかりました。また、積極的にどんどん手をあげて自分の意見をはっきりと主張する姿をみてこどもも刺激を受けました。時々、ゲストの英語が聞き取れなくて何度も聞き返すこともあったにも関わらず、嫌な顔一つせず、 ゆっくり話してくれたり、はっきりと話してくれました。3日目は最終日だったので一緒にたくさん写真を撮りました。宣言文採択が終わり、別れが来た時ゲストと私はお互いに泣かないようにしましょうねと言っていたけど、やっぱり私は号泣してしまい、それを見たゲストも一緒になって泣いてしまいました。遠いアフリカに住む人と関わることは初めてだったので本当にいい経験となりました。たった3日間でしたが、私はケニア人のゲストにおもてなしをすることができ、よかったです。この輪がずっと続くことを願っています。

2年 小松原 花子 おもてなし (タイ王国)

まず、この3日間が無事に終わったことがすごく嬉しいです。そして終わりを惜しむことができたことがとても嬉しかったです。3日間、ずっと途切れず緊張し続けました。『おもてなしはゲストに一番近い仕事』と準備セミナーで何度も何度も教えられた言葉を胸に留めて行動していました。外国の方が相手で、"英語で確実に伝える"ということが、当たり前ですがすごく難しかったです。改めて英語の大切さや自分の努力不足を認識しました。担当したゲスト達は気を遣ってくれたり、十分とは言えないわたしの英語を根気強く聞いてくれたりして、こんなじゃだめだなと3日間何度も思いました。しかし最後の日にもらった手紙に「友達になってくれてありがとう」とあって、頼りないながらゲストのために少しは何かできたのかなと思ってしまうくらい嬉しかったです。4月はまったく意味も知らなかったESDという言葉は、今では身近なものになりました。世界中から集まった同世代のみんなが同じ時間、同じ場所で同じことを考えていたという事実が改めてなんてすごいことなんだろうって思います。そこに居られたことが誇りです。もっとゲストと一緒にいたかったと思っているなんて、4月のわたしはきっと驚くだろうな。そう思うとやっぱり参加してよかったと実感します。高校生の今、こんなにも特別な経験をさせて頂いたことに感謝でいっぱいです。わたしの通う清心がユネスコスクールで、国際会議がわたしの住む岡山で行われて、それがわたしの在学中で。なんて奇跡なんだろうと思います。頑張りきることができて良かったです。中途半端に参加していたらこんな気分になれなかったと思います。だからこそ充実したユネスコ高校生フォーラムでした。

2年 篠原 夏美 ファシリテーター (英語書記)

ユネスコ・スクール高校生フォーラム世界大会が行われました。当日私は英語の書記を担当しました。もっとリスニングやタイピングの練習をするなど、できることはあったなあと思うことはありましたが、「今の自分の最高点をめざしましょう」という言葉どおりにできたと思います。それでも、議事録をもっとちゃんとした文章にすればよかった、ちゃんと皆の発言が聞き取れなかった、などとフォーラムを終えたいまでも悔しさが残ります。大勢の前で行った議事録よりも裏でおこなった仮宣言文案の修正や各国の発言のメモ集を作ったときのほうが満足のいく仕事のできたので、頑張った、と自分に胸をはって言えると思います。ファシリテーターとして大勢の前に座ったとき、一番最初に思ったことは「こんなにも多くの高校生がユネスコを通じて集まったのだ」ということです。そして「絶対に成功させないと」ということも思いました。私自身としては悔しさが残ったけど、全体として成功に導けたのでうれしいです。今回は運営側として大きな会に携わることができました。今回のことで物事を自分たちで進めることの大変さと誇らしさを感じることができました。また、ユネスコの概念についてより深く理解を得ることができた気がします。このフォーラムに参加した一員としてESDについてしっかりと考えたいです。

2年 高山 叶 受付

一日目は全体でオープニングがあり沢山の海外ゲストの方を目の前にして今自分がこの場所に居ることが本当にすごいことなのだなと実感しました。最初の受付稼働のときは、どんな風になるのか全くわからなくて少し戸惑いもあったけど笑顔でドアのところで海外ゲストの方を迎えていると、ゲストの方もすごい笑顔で挨拶をしてくださったり一日目ということで慣れない日本で少し会釈して下さるだけだったけど、反応してくれるのがすごく嬉しかったです。1ヵ国ずつのプレゼンが始まると、どの国もその国その国の環境問題、貧困問題をしっかりとあの短時間のなかで伝えていてすごいと思いました。みんな同年代なのに自分のしていること、考えていることがすごく小さいことのように思えて他の人たちがすごく大きく見えました。プレゼンが終わったりしたときありがとうございましたという日に日に海外ゲストの方も私達に Thank You と言ってくれたり日本語で言ってくれたりして私はその一言ですごくこのユネスコ世界会議に受付案内として参加できて本当によかったと思いました。ディスカッションでは、日本の高校生だけでは絶対にできないような積極性で沢山の国の名前が書かれた札が上がり、そしてなにもよりも発表している意見がしっかりしていて、海外の同年代の人の率直な意見が聞けました。国の環境、治安なども違うので日本ではでないような意見などもたくさん出ていて私が知っている他の国の認識が変わりました。そして、もっと日本も含め他の国がもっと豊かに平和になっていけるようにするためにはなにをすればいいのかを考えていく必要があると思いました。沢山出ている中で私が印象に残ったことは、高校生ということで大人は私たちの意見を真剣に聞いてくれない。ということ。だけどこれだけ内容の濃い国際会議ができたことはもちろん、多くの大人の方の協力あってのことだしその人達がいなかったら絶対に行われることのないことだったけど、高校生でもしっかりと自分の意見を持っているからそのことをこの世界大会を通して大人に少しでも知ってもらえたらいいなと思いました。本当にこのユネスコ世界会議高校生

フォーラムに参加できたことは、一生に一度体験できないかもしれないことだから参加できたことに感謝したいと思うし、ここで感じたことは忘れてはいけないし、これからもっと自分の国のことをしっかり認識して他国のことも知っていただきたいと思います。そして、より沢山の国がいい方向に発展していただきたいと思います。本当にこのフォーラムに参加できてよかったです。ありがとうございました。

2年 新田 真子 おもてなし（ドイツ）

ユネスコスタッフを始めてからはや1年。まずは無事に3日間にわたる世界会議が終わってほっとした気持ちです。この1年は本当にあっという間に過ぎ、ついに本番の日がやってきたという感じでした。準備セミナーの時、先生がおもてなし係は実際ゲストに会ってからでないとどんなハプニングが起こるか分からないとおっしゃっていました。正直私は本番の日もずっとおもてなしがしっかりできるのか不安で、楽しい気持ちよりも不安な気持ちの方が大きく、どうしようとばかり思っていました。でも実際にゲストを目の前にすると、ついにゲストに会うことができた、という思いになり、それまで抱いていた大きな不安は一瞬でふっとびました。不安がなくなったからといって緊張感をなくしたわけではありません。何が起こるのか分からないのだから、常に緊張感をなくしたわけではありません。何が起こるのか分からないのだから常に緊張感を持って三日間を臨みました。三日間の中で大きなハプニングもありましたが、なんとか乗り越え、最終的には本当にゲストの方と仲良くなれて、昼食後の自由時間もとても楽しむことができました。この三日間を通して私が学んだことは、英語を使って海外の異なる文化や価値観を持つ人々と自分の意見を交換することの楽しさです。正直私は英語で話すことは得意だと思っていたのですが、何度も「日本語だったらもっとうまく伝えられるのに」と思うことがあり、自分の英語力はまだまだ未熟だなということを知ることができました。それでもやはり自分の思いを伝えることができたときの嬉しさはとても大きく、自分は英語が好きだと改めて思うことができました。世界から32か国もの高校生が一度に集まり、意見を交換するという機会は、この先自身はもう経験できないと思います。そんな中で32か国もの高校生が意見を交換し、そしてひとつの宣言文を世界に向けて作り上げるという歴史的瞬間にゲストが安心して過ごせるように努めるおもてなし係として、最も近い場所からサポートできることを誇りに思います。この三日間を通して受けた数多くの刺激を忘れることなく、これからの日々を過ごしたいです。自分のやりたいことが見えたような気がします。本当に充実した三日間、参加して良かったです。こんな素敵な機会をいただき、ありがとうございます。

2年 長谷川 舞 おもてなし（南アフリカ）

ESDに関するユネスコ世界会議 高校生フォーラムが終わりました。世界中から高校生が集まって、各国のプレゼンやディスカッションを通して私たち高校生が出来ることは何か、考えることができました。そして世界の高校生とひとつになれて嬉しかったです。私自身は、留学から帰ってきて7月からの急な参加だったにもかかわらず、他のユネスコメンバーとすぐ馴染めて良かったです。いきなり、初めて参加したセミナーでおもてなし各国リーダーズに入ってしまう頼りない私がちやんと出来るか心配でしたし、プレゼンの移動など、練習では私たちも動きを把握できず、フォーラムでうまくおもてなしできるのか、不安でした。本番では、チームのみんながすぐ動いて協力してくれたおかげで成功でき、担当の南アフリカのゲストとも仲良くなれて良かったです。ユネスコの活動にもうちよつと早く関わっていたらよかったと思うこともあります。交流会やエクスカッションなどのイベントに全部参加させてもらって、ゲストとたくさんコミュニケーションが取れました。また、今までよく学校での歓迎会でも部活を通して関わる事が出来ました。世界中から集まった高校生による会議ということで、おもてなしの仕事の合間にもメモを取りながらプレゼンやディスカッションを聞いたりして、一緒にESDについて考えました。いろんな意見があり、様々な国が集まったからこそできるディスカッションだったと思います。活動期間は短かったですが、たくさんの人と出会って、いろんなことを学べて、私にとってとても濃いフォーラムとなりました。今回学んだことを活かして、これから私達が出来ることが小さなことからでも実践していきたいと思います。

2年 石崎 夫巳 おもてなし（オマーン）

1年間準備してきたユネスコもあっというまに本番の世界大会が来ました。私の担当の国はオマーンで、最初はオマーンという国があることも知らなかったし、どんな場所にあるのかも知らなかったけど、チームのリーダーがオマーンの文化や言語などオマーンについて調べてと言われたので、グループのみんなと協力して本番までにいろいろと調べました。調べていくにつれて、オマーンのいろいろなことが分かってきました。ゲストと顔合わせのときは少し緊張していて、どんな人が担当なのかずっと気になっていました。オマーンの人には言語がアラビア語で、英語でしゃべることができて、英語で話してくれました。私は中学3年のとき、オーストラリアのホームステイのときホストファミリーと普通に会話ができただけだったので、今回も普通に会話できるかなと思っていただけ、全く聞き取れなくて、自分が言ったことも通じませんでした。チーム全員でなかなか通じないことを悩んで、いろいろな方法でゲストに伝えました。大変だったけど、おもてなしとしてすることはちゃんとできました。ゲストを不安にさせないためにも、笑顔で対応できました。世界の高校生がみんな集まって「持続可能な発展」についてディスカッションをしたり、プレゼンテーションをしたり、今まで体験できなかったようなことをして、良い体験になりました。同じグループの人と、ゲストに催行のおもてなしをして喜んでくれてよかったです。

2年 宇野 愛花 おもてなし（ペルー）

私は、おもてなし係でペルーを担当しました。1日目の水曜日に初めてゲストの方と対面した時、言葉がなかなか出てこなかったのが緊張がよりいっそうましてゲストに自己紹介をしたり話しかけたりする事が思うようにできませんでした。2日目の木曜日は、1日目の反省点を解消しようと調べた英単語などを増やしていきました。すると、ゲストの方への休憩時間の声掛けやお昼の時間の対応が何回か言わないと通じない事もありましたが多少上手くいきました。2日目の反省点としては、ゲストの方がお昼の休憩の時に「外に出たい。」と言われた時に外と一緒にには出たもののゲストの方が行きたいお店を上手く案内する事ができなかった事です。ゲストに言われた物の売っているお店がすぐに出てこなかったのも原因の一つではありますが、道や場所を伝える時に自分たちはちゃんとゲストに道を伝えていると思っけていても全く初めての地に来たゲストにとっては何もわからないので結局は自分たちの中だけで説明ができた気になっていただけで、ゲストには全く伝わってなくて不安にさせてしまった所です。3日目は、朝から色々と変更した所もありましたが比較的スムーズにグループ内での連携、ゲストへの対応もする事ができ2日目に戸惑ってしまったゲストの外出も行き場を決めるのに通訳の方に力を借りたりして、少し時間はかかりましたが、行き先への案内などは2日目よりもスムーズ行きゲストの行きたい所へ行く事ができました。私が、おもてなし係としてしての仕事以外でこの3日間に及ぶ高校生フォーラムの中で思った事は同じ題材でプレゼンテーションやディスカッションをしても貧困問題を主に構成のなかに組み込んでプレゼンテーションをする国もあれば、自分たちの学校での事や生活の中で起こる事を構成のなかに組み込んでみたりなどいろいろな構成でプレゼンテーションの発表がされていて、同じ国の中でも考え方は十人十色で同じ事は少ないけれど世界各国の人が集まると同じ題材について考えても考え方がより広くなり、聞いていてすごく刺激を受けました。この活動に参加して私が学んだ事は、相手の気持ちを考え思いやる事の大切さです。それは、国や宗教、民族が違って年齢、性別、価値観が違って絶対大切にしなければならないものだと感じました。これからはどんな場所でもどんな人と出会ってもその人が何を思っているのかをちゃんと読み取り、人のために何かできる人になれるように心がけようと思います。

2年 小野 聡実 おもてなし（ギリシャ）

3日間あつという間だった。ちゃんとできるか不安だったけど、チームの人と協力できてよかった。準備セミナーの時は、自分がユネスコスクールの高中生フォーラム世界大会に関わっているという実感がなかった。でも実際にゲストの人と会って始めると、自分はすごいものに関わっているんだなと思った。海外ゲストの方はとても明るく、フレンドリーで少しびっくりした。積極的に話しかけてくれるし、一緒に折り紙を折ったりもした。また、自分の担当のゲストの人はもちろん、他の国の方ともたくさん写真を撮らせて嬉しかった。プレゼンテーションやディスカッションは同じ高校生とは思えない意見が本当にたくさん出てきて、すごく考えさせられた。格差や貧困、教育がきちんと行われていない、若者の意識が低いなどといったさまざまな意見があった。日本にいとあまり感じないが、世界にはこのような国の方が多いということに改めて感じた。私たち高校生だけでなく、世界の多くの人が環境についてもっと考えないといけないなと思った。貴重な経験ができてよかった。この経験を生かしていこうと思う。

2年 三宅 真央 おもてなし（カナダ）

ゲストと顔合わせした時にゲストとうまく話せるかどうか不安だったけど、ゲストと話してみても言葉が通じたので良かったと思いました。ゲストの国についてなど、合間に話すことを考えなければいけないと思いました。次の日のゲストを案内するのに、自分がゲストを困らせないように案内できるのか、とても不安でした。自分の班の人がゲストを迎えに行く係なのに、迎えに行くことができなくて、他の班の人がゲストを案内するようになっていたので、自分がゲストを案内する係になったら、責任重大なので、分からないことはよく班の人と話しておかなければいけないし、もし係でなくても自分がいつでも案内できるように、予定をよく確認しなければいけないということ、実際に案内して学びました。他にも英語がうまく話せなくても一生懸命伝えようとしていたらゲストに自分が言いたいことが、なんとなく伝わっていたので、言葉だけでなく、笑顔で伝えることが大切なのだと思います。ゲストを案内するときは笑顔を絶やさないように、英語が話せなくても英語を話そうとする努力をしなければいけないことを、ディスカッションや休憩時間のゲストとの交流を通して分かりました。次の日はいろいろな国のプレゼンテーションを聞きました。オマーンでは持続可能な社会を目指して Global Warming, Desertification, Deforestation, Drought など、クリーンな環境を続けるようにしている。このようなことを防ぐために、森林伐採をしないように訴えていることを知りました。ギリシャではロボットで海水汚染を調べていたり、公園に花を植えて花壇にしたり、環境をよくする活動に取り組んでいました。そのことで技術を向上させたり、意志や意欲が責任へと芽生えていくという利点がありました。私たちも持続可能な社会を作るために、身近なものから貢献できたらいいと思いました。ベトナムでは蓮の歌が人気があり、文化も多様で、それぞれの村に文化があること、教育を受けることが幸運なことだということを知りました。教育を受けることができるということの意義を理解しました。京都では「もったいない」の精神で活動していて、文化を互いに理解し合えるようにしたいと言っていました。私はこのフォーラムでいろいろなゲストの話聞いて、多文化をよく理解しようと思いました。ゲストから「もったいない」はどういう意味か聞かれて、それについて答えたり、日本の事を外国の人に伝えたりすることはあまりなかったので、とても貴重な体験でした。

地域交流会（フィリピン共和国）

(1) 中学3年 霜山 菜都乃

私たちはフィリピンから来られた生徒の方々とESDに関することについて話し合いました。課題は私たちが今までNELPで学んできたことを中心に、生物と人間の関わり、環境問題についてなどでした。この中で、私が特に印象に残った話題は、「フィリピンと日本の環境問題の違い」についてでした。日本では最終処分されるゴミは埋め立て地へ運ばれて、その土地が狭くなるのが問題となっています。この問題について、フィリピンの人は「日本は街や道路にゴミがひとつも落ちていないので、ゴミ処理についての問題があるとは思わなかった」と言われました。日本が清潔であるというイメージを持っていることを嬉しく思いましたが、それと同時に日本に住んでいる一人ひとりが環境問題について考えなければならぬと気づきました。

(2) 中学3年A組 平田 望紗

私はフィリピンの生徒と交流をして、初めの印象は高校生には見えず、大学生くらいかと思いました。フィリピンの話を聞いて、彼らは自分の国が抱えている問題などをよく知っているのだと感じました。私はそのとき、日本が抱えている問題について、自分自身は「よく知らなかった」というよりも、「考えようとしていなかった」、「知ろうとしていなかった」ということに気づきました。これからは、日本が抱えている問題について、私たちが考えなければいけないと思いました。また、公用語は英語なので英語を話しているのだと思っていましたが、実際には、他の言語も存在していることを知りました。フィリピンの生徒はみんな明るい人で、交流会はとても楽しかったです。

(3) 中学3年A組 森田 葉捺

7人のグループに分かれて『桃太郎』の話をフィリピンの高校生に紹介しました。「桃から男の子が出てきた」ということだけでも、予想以上に大変でした。そんなことは常識ではあり得ないことなので、フィリピンの高校生はとても不思議そうな顔でした。私たちが最も悪戦苦闘したのは、桃太郎が犬や猿にきびだんごをあげるシーンです。「きびだんごって何？」と聞かれ、どう答えればいいのか戸惑いました。私たちにとって『桃太郎』は誰もが知っている内容ですが、それについて全くなじみのない人に、しかもそれを英語で伝えるというのがこんなに大変なことだということを実感しました。10分間という制限時間でストーリーをすべて伝えきることはできませんでしたが、理解していただいた所もあったので、グループで協力した達成感を得ることができて嬉しかったです。

(4) 中学3年B組 吉田 奈緒子

1月4日ユネスコスクール世界大会の一環として、フィリピンの生徒さんが4人清心学園を訪問されました。私たはまず初めに、英会話の授業でお互いに自己紹介をしました。フィリピンの人に、私たちのことをクイズ形式で知っていただき、とても楽しむことができました。次に、私たちが『桃太郎』のストーリーを英語で伝えるというゲームを行いました。しかし、私たちの英語力や国語力が足りないせいか大変で、身振りや手振りで頑張って伝えました。時々笑いも出て、フィリピンの生徒さんたちとも打ち解けて有意義な時間を過ごすことができました。私はここで、英語の語彙力を増やすことの大切さを学びました。このような小さな経験で得たものや感じたことを積み重ねて、国際的な交流の輪を広げていきたいです。

(5) 高校1年D組 山本 珠緒

今回フィリピンの生徒と一日一緒に過ごす機会がありました。清心小学校を訪問したあと、倉敷の美観地区を散策したり、大原美術館を見学したりしました。今まで私は英語は勉強してきても、あまりそれを実践的に活用する交流会などには参加したことがありませんでした。また、英語は得意科目ですが、自分から積極的に意見を述べたり、相手に話しかけるのは得意ではないので、今回も、初めはとても不安でした。しかし、フィリピンの生徒たちが、何か困っていたりしている場面に遭遇すると、何とかコミュニケーションを取りたいと思い、自然と英語で話しかけることができました。決して上手な英語ではないかもしれませんが、フィリピンの人たちはきちんと理解してくれて、私はとても話しやすかったです。とても良い経験になりました。

(6) 高校1年E組 山岡 歩美

フィリピンの日本とは違う文化を学べて良かったです。初日は学校で交流会がありました。私たちのクラスは、グループに分かれて学校見学をしました。フィリピンの生徒と先生はとても優しく、話していてとても楽しかったです。一緒に校内を散策したときも、説明を熱心に聞いてくれて嬉しかったです。そのときに話したフィリピンの食文化には驚きました。同じ地球に住んでいても、文化は違うのだと改めて実感しました。次の日の倉敷の美観地区の散策では、フィリピンの生徒も楽しんでいるようで良かったです。このような経験ができて本当に良かったです。

(7) 高校2年C組 大橋 啓美

私は今回フィリピンの人と交流会を通して多くのことを学ぶことができました。最初は何を話せばよいのか分からずにいましたが、最終的にはたくさん話すことができました。清心小学校や倉敷美観地区で一日行動を共にして、日本の文化に対する考え方や、フィリピンと日本の文化の違いを知ることができました。他国の学生と交流できる機会はそう多くあるものではないので、今回参加することができて、とても良い経験になりました。

(8) 高校2年C組 長谷川 舞

先日行われたユネスコスクール世界大会の前日に、フィリピンの生徒と先生が私たちの学校を訪問されました。7校時には、高校生全校で歓迎会を開きました。フィリピンの高校生が民謡を踊っていて、衣装もきれいでとても美しかったです。フィリピンの伝統芸能のことは全く知らなかったのですが、興味を持つようになりました。その後は私たちがパフォーマンスをしました。箏曲部による琴と三味線の演奏があり、私たちの聖歌隊はハンドベルの演奏をしました。私は日本語とタガログ語でフィリピンの民謡である「レロン・レロン・シンタ」を歌いました。夕方の岡山市での歓迎会で「よかったよ」と言ってくれて嬉しかったです。ユネスコスクールには、運営スタッフとして参加していますが、学校の部活動でこのような交流会に参加できたことも良かったと思います。また、岡山市主催の夕方の歓迎会には、清心女子高校の生徒4名も参加させていただきました。学校からのジャンボタクシーと一緒に乗せていただき、到着するまでの時間は、車内で学校のことについて話したり、フィリピンの言葉を教えてもらったり、とても楽しい時間になりました。歓迎会でも他のいろいろな国の生徒とお話しできて有意義な時間でした。これからも、このような国際交流に積極的に参加したいです。

(9) 高校2年C組 井関 やあめ

フィリピンの高校生との交流会、歓迎夕食会を通して、違う国に住む人と積極的に関わり、仲良くなることの楽しさを改めて感じることができました。学校での交流会ではホストとして、日本の伝統楽器である琴や三味線の演奏や聖歌隊によるハンドベルの演奏で歓迎し、フィリピンの生徒からは伝統的な踊りを披露していただきました。このような出し物を通してお互いの文化に触れ、存分に楽しむことができたと思います。近年、テレビやインターネットなどの情報機器の発達で他国の文化を知ったり、情報を得たりすることは容易になっています。しかし、実際に自分の目で見たり、耳で聞いたり、感じたり、さらに体験したりする機会はあまりありません。そのような貴重な経験を、私たちが毎日過ごしている学校で経験できることに感謝したいと思います。また、歓迎夕食会では高校生フォーラムよりも穏やかな雰囲気です交流することができました。高校生ならではのおしゃべりを楽しんで、みんなが仲良くなれる絶好の機会でした。とても素敵な時間を過ごすことができました。ゲストの笑顔を見て、ホストも笑顔になる。そういった光景を高校生フォーラムを通してたくさん目にすることができて嬉しい気持ちで一杯になりました。ここで体験したことや感じたことは、私にとって一生の宝物になりました。ありがとうございました。

NOTRE DAME SEISHIN GIRLS' HIGH SCHOOL VISIT

Adrian Muan Ko

Ramon Pascual Institute

Recently, from November 3-9, 2014, we went to Japan because we attended a conference. The conference is all about UNESCO ASPNet International ESD Events in Okayama, Japan. Several country teams participated in this event and I am fortunate to be part of the Philippine delegation. I went to Japan together with Mr. Allan Bernard R. Aman, our teacher, Kizza Marie Ebdone, Abigail Ching, and James Matthew David. The main topic of this conference is about ESD or Education for Sustainable Development.

One of the best parts of this journey is when we visited the Seishin Girls' High School last November 4th. The school is very big and beautiful. The school can be considered as one of the best schools in Okayama, not only in the Okayama city but also in the whole country of Japan. The school has gymnasiums, swimming pool, tennis court, archery court and different buildings for each grade level. The school is also a private-sectarian school. I am also amazed of the trophies and certificates I saw. I think those achievements is because of the greatness of their teachers and students. The school also has a Biology Room, Physics room, Dance Class, Music Class, Math Class, Social Civics class and the most important, the English Class.

The students and teachers in Seishin Girl's High School welcomed us very nicely. They toured us around the school and we were really astonished by the beauty of their school. A group of students were assigned for each one of us. One of students I met is Ayumi because she is the one who toured me around their school. After touring us around their school, the Philippine delegation and the students of Seishin had a get-together wherein we were introduced to each other. We also attended their 2 English classes handled by Mark Seinsei and Matthew Seinsei. During the class of Mark Sensei, we had an exchange of ideas and information on how to attain the sustainability of our respective schools and countries. We talked about the programs and activities of their school for promoting ESD. They said that they are studying life sciences wherein they are keeping salamanders and turtles to avoid the extinction of this species. They told us about their windmills proposed by Mr. William that generates electricity. I am also touched by them because they donated money to the areas affected by Typhoon Yolanda so this are some the topics that we had talked about during the class of Mark Sensei. On the other English class, it is handle by Matthew Sensei. In his class, we played a game with his students and the name of the game is "2 truths and 1 lie". We were tasked to write 2 truths that is related to us and 1 lie. Because of this game, we knew some of the personal information of his students. We also had a quiz about the city of Okayama. We also had a storytelling about Momotaro wherein, the students tried their best to tell us the story in English. These students were very cute, kind and nice. Even though we had a hard time to communicate with each other, they still tried their best to communicate with us.

After having a get-together, we were introduced to all of the students of Seishin Girl's High School during their school assembly at 3:00 pm. During their assembly we had a cultural exchange event. They performed a traditional song with us using their instruments. Their hand bell choir also performed a traditional song for us. They also sang a Philippine song that is entitled "Leron Leron Sinta". The way they sang this song was very cute and amazing. They sang the Philippine version with its Japanese translation. In return, we also performed the Philippines' Carinosa Dance which shows how a man courts a lady before their wedding.

The students and teachers in Seishin High School are very disciplined and educated. I loved everything about this school. If I am given another chance to visit this school, I will grab it again. I really want to thank the principal, Kodera Sensei, Mark Sensei, Matthew Sensei and other teachers and students who made this event possible and successful.

I am Adrian M. Ko, a senior high school student from Ramon Pascual Institute and part of the Philippines' delegation. Once again we want to thank Seishin Girls' High School for giving us a chance to visit their school. Thank you for being part of my life. I will treasure all the happy moments I made during my journey to their school.

NOTRE DAME SEISHIN GIRLS' HIGH SCHOOL VISIT

JAMES MATTHEW B. DAVID

PAX ET LUMEN INTERNATIONAL ACADEMY, ANGELES CITY

Being in Japan for the first time was truly astounding basically because of the new sites to see. Attending an international conference with the other youths all around the globe made the experience even more incredible.

The first day of the event was spent at Notre Dame Seishin Junior/Senior High School. There, exchange of Philippine culture with the Japanese through dances and songs was truly unforgettable. We danced the Philippine national dance, Carinosa, and the Japanese played a traditional Japanese song with their Koto and Shamisen, traditional Japanese musical instruments. After playing their song, they presented a Handbell Choir that played Under The Sea, a song from Disney's Little Mermaid, and Leron Leron Sinta, a Philippine traditional song but sang with a mixture of Nipongo. One notable observation in Japan which was similar in the Philippines was that slippers were needed to be changed every time you enter another room. When the host students told the story about Momotaro, a hero that saved the village from an Oni, an ogre, I realized a gap in communication due to the strong accent of the Japanese. Despite that, understanding ensued mainly because of respect and willingness to adapt.

When we visited a sister school of Notre Dame Seishin Junior/Senior High School, the Notre Dame Seishin Elementary School, the following day, it was amazing to notice the hallways of the two schools having the same designs. Both schools are Christian schools, a surprising fact to know such schools are present in a non-Catholic country.

The day of the main event came when we had to present in front of an international crowd of about 50 individuals. When my turn came, blood rushed to my nerve but the agitation subsided as the presentation went by. Being able to share the challenges in sustainable development present in the Philippines was indeed fulfilling knowing that in one way or another I became part of the big change that is about to happen in the future, if not yet soon.

A sumptuous lunch at the Hotel Grandvia followed after the presentation.

Another very intellectual session followed when the team was divided into two. Kizza and Adrian were in a room together with the other foreign delegates discussing the factors that promote sustainable development. I was with Abigail together with the other foreign

delegates brainstorming about the challenges that hinder us from having a sustainable future. While others gave substantial views, some were just mediocre. The mediocrity was basically due to non-understanding of the topic or limited exposure to the terms and themes. Nonetheless, most delegates were given chances to share their ideas in the discussion; however, some were not due to lack of time. Those who were not able to share in the first day got their chance to share the following day when the session resumed.

One very notable observation was the heated argument among some delegates which was toned down in time. Opposing views are truly present in an affair like this one but it was amazing to see how these teenagers got so involved and concerned about the activity. Respect and acceptance were evident that in a diverse culture mentality is also diverse.

Evening of November 7th came and we had our Opening Ceremony or Welcome Ceremony at the Okayama Symphony Hall. Here, they showed the beauty of Japan, especially Okayama through a projected film. The affair was very grand and beautiful as if it were in a dream.

The excursion at the Asahikawa River was fun-filled. There, we learned about the different sea creatures of Japan. We also tried to catch fish though I was unfortunate enough to catch one. After that, we went to a grape orchard where we received three free bunches of grapes. That was about 6000 yen times 3, so it was worth ¥ 18000 if you are going to buy it from the market. I was glad to have gotten it for free because it was expensive.

There were lots of things that I have observed in Japan during my one week stay there. It was my first time to see a high-tech toilet with bidet, spray, etc. Just impressive! Then, the differences between rural and urban areas were not that far. The rural area looks like a metropolis already. I have as well observed that Japanese are well-disciplined citizens. They do not cross a street if they do not see a pedestrian lane. They would look for a pedestrian lane no matter how far that is just to cross the street. They drive on the left lane. That is completely opposite from the Philippines where we drive on the right. When on the stairs, they tend to walk at the right and leave the left part for people who are rushing or in a hurry. So, they drive on the left and walk on the right. In the Philippines, we drive on the right lane, we walk anywhere we wish to.

Japan is so clean despite having few trash bins anywhere. They bring their trash with them and if they see a rubbish on the street, they would pick it up and bring it with them and throw it where the bins can be found.

Another, when they ride in a bus, normal people sit on regular seats and if these seats are out, they would just stand up even though the Priority Seats (for disabled, elderly and pregnant women) are unused and available.

I am really amazed of how the leaders of Japan made its citizens disciplined, polite, and very honest. Truly amazing and impressive!

These Japanese were indeed admirable when I asked them about their dreams in the future, their desired occupation, and their answers were like: To Develop my Country. They did not say their dream occupation but all or most of them answered: To develop their country. I am impressed on how supportive they are to their country. How I wish most Filipinos have this kind of mindset. Through this, we can develop our dear Philippines. It is never too late if we start from ourselves. Big things will definitely follow like developing something complex like the city, country or state, our environment, our culture, etc.

This trip was an eye-opener for a teenager like me. I was indeed grateful for a wonderful chance granted to me hoping that the same chance would also be granted to more Filipino teenagers. And here's hoping for more Filipino youths to be truly concerned for the well-being of our own dear country.

Seishin High School's Warm Welcome

November 12, 2014
Abigail Ann A. Ching
Miriam College High School

Notre Dame Seishin High School, the host high school we visited on the 4th of November 2014. The way their principal greeted us first as we entered the building was amazing; we felt warmly welcomed. It was a great experience overall, I did expect everything to be executed in an orderly manner and they surpassed my expectations. It was the day I would never forget, as I felt completely welcomed in Japan.

I remember the school tour that we had as I was brought around the campus, literally. They first brought me to the club venues, such as the archery area and the tennis court, where I felt completely astonished by how complete the school was. Next was that they brought me to the laboratories, which again completely amused me. It was amazing; the fact that they are exposed to lab works and very advanced experiments at such a young age. I learned more about the salamanders and how they lived in their natural habitat. They also taught me the processes they do, which again, I was amazed since they are actually capable of applying the lessons that they had into real life. After the laboratory, they brought me to their pond wherein small fish were seen. Seeing their areas wherein it was really applying ESD into their educational system inspired me to promote ESD to my school even more.

Frankly, I do know that not all of my classmates know of ESD, maybe only 2 or 3 people know of it due to their electives. The warm welcome of Notre Dame Seishin High School and the ESD projects that they have pushed me to tell other people about it. Sitting into their classes also made me realize on how important communication is to them, such as the ability to speak in English with other people, and the fact that they still integrate ESD in their homework and reading sessions. Even though the reading sessions may only seem to be an introduction to different vocabularies, the fact that those articles are still ESD-related shows how dedicated the school is to ESD. Their dedication made me think of more programs that I can propose to my school and possibly implement in the near future. Thanks to Notre Dame Seishin High School, I was even more aware of how important ESD is, no matter the gravity of presenting this to the crowd or no matter what type of activity you do.

NOTRE DAME SEISHIN GIRLS' HIGH SCHOOL VISIT

KIZZA MARIE EBALDONE
 Jaro National High School
 PHILIPPINES

The day started with us being told that we were going to an all Girls' School in the far end of Okayama City. Mr. Hiroyuki Kodera, one of the teachers of this school fetched us from the hotel. He was very nice. He told us to call him 'Sensei' since it's the Japanese word for 'teacher'. We rode a bus to the school since Sensei said it would take about an hour to get to the school. The reaction I had when we first arrived Seishin Girls' High School was that I so shocked. The school was very spacious. It had to be like about five times of our schools' total land area. It was surprisingly large! When we entered the school premises we had to take off our shoes and wear these slippers. And honestly, I felt like having a culture shock since we Filipinos don't usually do that. I was really amazed with the hospitality that the school staff and students showed towards us. The welcome was very warm. Students would bow and greet us. They would talk to us even though they are trying very hard to communicate in English. We went to their Advance English Class and had a talk with some students regarding the reason why we went to Japan in the first place. Then we were given some time to share about our problems in our own countries.

Accompanied by some of the students, we were divided into 4 groups and roamed the entire school, from the Canteen to their Science classrooms. I was amazed with the equipment they had in those rooms. How I wish we had something like that in our school. They took me to the back part of their school where they had this pond. They said that they grow this kind of species of plants there to experiment it with which I find very interesting. After that, we went to the chapel. It was very beautiful. The stained glass in the windows brought so much beauty to that place. Then, we went to the cafeteria to have lunch. It was a Japanese bento. This was the first time I tried eating Japanese food so I was very flustered. But it was actually very delicious, far from what I expected to be honest. Then, we went to several classes and got to interact with the students. We played many games and we got to learn about the story of Momotaru (He was considered the hero of Okayama) But what I liked the most was the student assembly where all the students were gathered. We had our cultural exchange with them. We performed our National Dance "Carinosa". I think they enjoyed it since we received a lot of applause from them. And as an exchange, they performed a couple of songs with these stringed instruments (I forgot the name). And their school's bell choir even performed for us as well. I have never seen a bell choir before so that was like a first time for me. They performed different songs which was really pleasing to the ears. I never thought that bells would take such a beautiful sound like that. They even performed "Leron Leron Sinta" and these two girls sang it in their own Japanese version and the original Tagalog version. I was moved. I know they had a hard time pronouncing tagalog words but they still did it. Those girls really did a good job. Then, the assembly ended and sadly, we had to go back to the hotel. But we were informed that five girls were going to the hotel with us. And we had a chance to have a talk with them on the way. I talked to Mai most of the time since she was the one sited next to me. She was very kind. She told me many stories about her life and I taught her some Ilonggo words. We practically giggled so much since she tried very hard to copy my intonation. It was fun talking to her.

Although our time was limited, I really enjoyed myself for that day. I would never forget the short time that I got to spend with them. How I wish there would be a next time. I hope that I am given another chance to see and be with them but in a different circumstance. I would like to thank their principal, the staff and the students themselves for the kindness they have shown to us. Thank you for everything. Arigatou gozaimasu!

Special Thanks to Mr. Allan Bernard Reyes Aman, Ramon Pascual Institute, for his sincere cooperation.